

【編 集 後 記】

会誌「地球環境」第3巻の特集「熱帯林の保全と修復にむけて」をお届けします。この特集が企画された経緯については高井康雄先生による序文に述べられている通りです。それに続く荻野和彦先生の総説をお読みなれば、今日日本が熱帯林、特に東南アジアの熱帯林の研究に大きく貢献しているのは、地球環境の中での熱帯林の重要性がまだ一般には認識されていなかった1950年代からの諸先輩の様々な努力と苦勞があったからこそという感を強く持ちます。野外調査にはさまざまな危険が伴いますが、さらに熱帯では熱帯特有の危険が伴います。これらの危険に遭遇する確率をいかに抑えるかというのも熱帯林研究を次の世紀を担う若い世代に引き継いでいくためにも大切なことだと痛感します。

現在、日本が中心となってすすめている複数の大型プロジェクトで得られている最新の成果を横断的に紹介したものとしてはこの特集がはじめての企画であろうと思います。本特集では各プロジェクトの概要全般を紹介することは敢えてせず、それぞれのプロジェクトの中で得られつつある、いくつかの興味深い研究成果に的を絞って、しかもその研究に現地で実際に携わっている研究者の方々に執筆をお願いしました。研究者が熱帯林で何を考え、何をめざして研究を行っているかという生の声がお伝えできれば本特集は成功であったといえます。皆様の率直なご意見やご批判を仰ぎたいと思います。

会誌「地球環境」は地球環境に関わる研究者、行政関係者、NGO関係者などの皆様に地球環境研究の現在をわかりやすくお伝えすることを目指しています。会誌「地球環境」についてのご意見や特集のご提案など、事務局あてに積極的にお願いします（N. K.）。

地球環境 第3号 第1号&2号 (1998)

発行者 近藤次郎

発行所 社団法人国際環境研究協会
〒105-0011 東京都港区芝公園 3-1-13

電話 03-3432-1844

印刷 有限会社 アレス
〒305-0032 つくば市竹園 2-11-6 電話 0298-53-8188

©1996(社)国際環境研究協会

本誌に掲載されたすべての記事内容は、(社)国際環境研究協会の許可なく転載・複写することはできません。